

# 核のデマ



*by Miles Mathis*

初出 : 2016年1月24日

例によって、これは私的な調査に基づく、私の専門的な意見に過ぎない。

私はすでに、[ビキニ環礁での実験について](#)、捏造の証拠写真を示しながら、短い論文を書いている。そこでの私の主張を誤解して、ビキニ実験だけが捏造で、トリニティ実験や日本での実験は本物だと言っているように思われる方もいらっしゃいます。しかし、そうではありません。私は決してそのようなことをほのめかすつもりはなかったのです。あの論文でトリニティ実験に言及したのは、ビキニとトリニティの話が互いに矛盾していることを示すためだけなのです。トリニティで見せてもらった風は、ビキニでは存在しなかったようです。

いずれにせよ、私の結論は、すべてのテストや出来事が捏造されたものである疑いがあることを明確にしたつもりだ。もし、それが明確でなかったなら、ここではっきりさせておこう。私は、**すべてのテストや出来事が捏造されたものであり、捏造されたものであると疑** **つ** **て** **い** **ま** **す**。もし、私たちに見せるべき本当の出来事があれば、捏造された出来事を見せる必要はないでしょう。

この話題に戻るきっかけとなったのは、ローレルキャニオンにある[ルックアウトマウンテン空軍基地](#)のWikipediaのページを偶然に見たことだった。この基地は、私が暴露した[テイト／マンソンの事件](#)で重要な役割を果たした基地だ。ロサンゼルス丘陵地帯にひっそりとある小さな軍事基地で、1941年に政府の飛行場として建設されたのを覚えているだろうか。1947年に拡張され、CIAの1年目になりました。何千もの宣伝用フィルムが作られましたが、これは

認められます196

8年に閉鎖

されたと言われ

ているが、それは嘘であったことが分かっている。1983年のジェダイの帰還のクレジットにロックアウトマウンテンの名前がありますから、そのときはまだオープンしていたのでしょ。1968年に閉鎖されたと思わせて、1969年のテイト／マンソンの事件と結びつけられないようにするためです。しかし、実はこのウィキペディアのページは、この1年で閉鎖時期を1968年に書き換えられているのです。私がテイトの論文を書いていたとき、Wikiページのコピーを保存しておいたのですが、そのときは閉館日は1968年ではなく、1969年と記載されていました。つまり、私のテイト論文を受けて、Wikiページを書き換えたというわけだ。私の論文に反応してWikiページが書き直されたり、削除されたりするのは、これが初めてではありません。最初の例は、何年も前に、私の科学サイトの[潮汐に関する論文](#)に反応して起こったものです。その時は

その結果、潮汐理論のページは永久に削除され、私が論文の中で批評した数学はすべて削除されました-

それは主流の数学で、他の多くの本やウェブサイトで見ることができるにもかかわらず。

とにかく、ルックアウトマウンテンのページは完全に削除されたと思っていたのだが、不思議なことに広がっている。その拡張のほとんどは、閉鎖日の変更と同様にミスディレクションであるが、すべてのミスディレクションが成功しているわけではない。この写真を含め、いくつかの写真が追加されています。



グリーンハウス作戦とは、1951年にエネウェタック環礁で行われた一連の核実験のことである。この出来事が **脚本付きの動画になるなんて、おかしい**と思いませんか？記録することは理解できますが、**脚本化するのは？**なぜ、核実験に脚本が必要なのでしょう？普通、台本は現実の出来事ではなく、仮の出来事に対して書くものです。実際のイベントにはスクリプトは必要ないのです。今回もまた、あなたの鼻の前に目立つように手がかりを配置したのです。これは「もう1つ教えてよ、将軍」作戦と呼ぶべきでしょう。

エネウェトクのページを開くと、こんな写真があります。



その写真には、サブテキストがある。

放射能雲の中を飛行した米空軍の**ボーイングB-17**型ドローンからフィルターが取り外されているところです。

えっ、窓の上に置かれた白いシートで放射性粒子を防ぐとか、そんなの無理でしょう。それに、飛行機がドローンなら、なぜフィルターを使うのか？放射性物質の雲の中をドローンを飛ばす唯一の理由は、イオンレベルをモニターするためです。しかし、イオンレベルをモニターするのであれば、フィルターは必要ないでしょう？飛行機が有人だった場合のみ、フィルターが必要になります。私は飛行機が有人であったと疑っています。なぜ？そこに座っているのが見えるからです。当時の話では、無人機は離着陸ができないので、「自殺」ミッションにのみ使用されたそうです。パイロットは高度を上げた後、ベイルアウトしなければならず、その後、遠隔操作で飛行させることができたのです。しかし、遠隔操作では着陸できないので、わざとどこかに墜落させる必要があったのです。つまり、敵の標的にミサイルとして使うのである。第二次世界大戦中、このミサイル機を操縦していたとされるジョセフ・ケネディ・ジュニアの死から、このようなストーリーを知ることができます。彼ともう一人のパイロットは、飛行機を高度に上げてから脱出するはずだったのですが、脱出する前に何らかの理由で搭載物が爆発し、二人とも亡くなってしまったのです。私は、この話が別のデマであることを示しましたが、当時、無人機を離着陸させることができたからではありません。ケネディがそのミッションに選ばれるわけがないので、デマなのです。また、飛行機にはFLMクルーがついていたので、明らかな捏造です。ケネディの死の証拠とされる爆発を撮影するためでない限り、FLMクルーがそのようなミッションに従う理由はないでしょう。しかし、これらの飛行機が離着陸のためにパイロットを必要としたという部分は事実です。B-17は、着陸を成功させるために、コックピットの中で目と手の正確なコーディネーションを必要としました。

このB-

17がドローンだと言っているのは、あのくだらないフライターについて質問させないためだ。もしこの飛行機が有人機だと認めたら、どうやってコックピットで放射能が飛散するのかと質問し始めるかもしれませんね。簡単に言えば、あり得ないということです。放射能とはアルファやベータといった非常に小さなイオンのことです。ベータは高エネルギーの電子です。電子は小さいので、スクリーンでは飛ばせません。光子もだめです。コックピットの周りは完全にシールドされていなければならないのです。遮蔽するのであって、弾くのではない。しかし、もしシールドされていれば、シールドによって視界が遮られるため、飛行させることはできない。というわけで、この話はどっちも失敗です。



それが、次に見つけたとんでもない写真です。これがそのサブテキストです。

レスリー・グローブス少将とロバート・オッペンハイマー、数週間後にトリニティーの射撃塔跡にて。白いオーバーシューズは、トリニタイトの降下物が靴底に付着するのを防ぐためであった。

笑いが止まらないので、少し時間をおきます。実験から数週間後のグラウンドゼロに、白いキャンバス地の袋を靴の上にかぶせただけで、防護服を着ずに立っているのです。20kt爆弾は、彼らが立っている地点のちょうど100フィート上で爆発したはずなのに、私たちが目にするのは、焦げもしない小さな土の山だけです。地面を見てください。ひび割れた土だけです。超高温に加熱されてマグマになるか、エアロゾルになったはずですが、トリニタイトが靴に付着するのを防ぐために医療用ブーツを履いているとのことですが、トリニタイトが見えますか？トリニタイトは、土や岩を高温にすることでできる、ガラスの一種だと思われます。そこにガラスのようなものが見えますか？見えませんね。普通の砂漠にあるような、ひび割れた粘土のように見えるだけです。靴にガラスが付着することは？いいえ。もし砂漠の床を超高温にしてから急速に冷やせば、粘着性とは正反対の状態になるでしょう。ガラスのように硬くなり、無孔になるのです。

砂漠の砂は大部分がシリカできていると言われているが、上の写真を見ると、そうではないことがわかる。彼らは、砂ではなく、ひび割れた粘土の上に立っているのです。

そして、なぜ穴がないのか？私たちが見ているこれらの出来事の捏造写真には、巨大な柱とキノコが写っていることを思い出してください。その柱とキノコはどこから来たと思いますか？私たちは、それらが地上の堆積物の隆起から来たと信じるように仕向けられています。他にどこから来るのでしょうか？もし、地上の巨大な土砂の柱を隆起させ、それを上空に飛ばしたのなら、巨大な爆裂火口や穴があるはずですが、ここにはごくわずかな土の山があるだけです。

なぜクレーターを期待するのか」と言われるでしょう。100フィート上空で爆発した核爆弾が、その下の地表にどんな影響を与えるか知っているのか？いいえ、あなたも知らないでしょう。私たちが求めるのは一貫性ですが、これらの話にはそれがありません。例えば、ビキニで行われたベーカーの爆発は、トリニティーの爆発より13%強いだけでしたが、幅2000フィート、深さ30フィートの海中にクレーターを作ったと言われています。これは海を緩衝材とした場合です。ベーカーは海底の半分の高さで爆発したと言われています。つまり、爆発とクレーターの間には90フィートの海があったのです。しかし、トリニティーは砂漠の底からわずか100フィートしか離れておらず、その間には空気以外の何もありません。それにもかかわらず、幅30フィート、深さ5フィートのクレーターができたと言われています。繰り返しますが、ベーカーでは幅2000フィート、トリニティーでは30フィートなのです。私には、トリニティーでは大きな穴を掘るのが嫌で吹き飛ばしたようにしか見えません。

しかし、上の写真からわかるように、クレーターは全くなく、深さ5フィートもない。オッペンハイマーとその仲間、起爆した塔であるショットタワーの基部にいる。彼らは4本の脚のうちの1本を見つめており、後ろの連中は別の脚を見つめている。



その間にクレーターがあるのが見えますか？見えません。

最後に、私たちは、この人たちがまだ空からの放射性降下物があるであろう時間に、防護服も着ずに高濃度の放射能汚染地域でただぶらついていると信じろというのでしょうか？フォールアウトは2週間か何かで終わり、地面も数週間後には放射能がなくなると言われるでしょう。しかし、それは私たちが聞かされてきた他のすべての話と矛盾している。例えば、ビキニ環礁のページでは、最後の爆発から10年後（1968年）に、「放射線レベルは十分に低下しているという科学的な助言に基づき」、原住民が連れ戻されたことが書かれている。しかし、1982年、フランスの調査団は、放射線レベルはまだ安全でないことを発見し、島民は再び連れ去られた。最後の爆発から24年後のことである。しかし、トリニティ実験からわずか数週間後、オープンハイマー自身がスーツにネクタイ姿で爆心地に立っているのを目撃しているのだ。



AFTER TEST

もう一枚、グラウンドゼロの写真です。これはどこかの家族の休暇で撮ったものではなく、実験後すぐに撮られた政府の写真です。ウィキペディアのトリニティのページで公開されている数枚のうちの1枚です。前の写真と一致しないだけでなく、やはり、穴も、焼け焦げも、ガラスも、その100フィート上で20Ktの爆発があったという証拠もないのです。私は、ビーチで小学生が砂の城を作ることによる被害をもっと見たことがあります。この人たちは誰なんだ？二人組の浮浪者にしか見えない。この写真は、70年後に巨大なメインストリートのウェブサイトに掲載されるトリニティ実験の証拠として期待されるようなものだろうか？5つ星の将軍や他のお偉方の足元か、リードスーツの男たちの幹部が写っていると思うのですが、どうでしょう？古タイヤを探しているような二人組を期待することはないだろう。また、このジョークには笑わざるを得ない。これはもう、"Operation Sure-It-Did"でいいんじゃないでしょうか。

また、トリニティ実験が1945年7月16日だったと言われていることも覚えておいてください。広島はその3週間後の1945年8月6日である。実験として意味がないだけでなく、7月の戦況を考えても意味がない。重要な装置のテストは、通常もっと長い時間をかけて行われる。一度テストしたものを3週間後に使うということはありません。新しい化粧品のような比較的取るに足らないものでも、多くの被験者に何ヶ月も何年もかけてテストし、その後には後遺症を観察するのである。一人のモルモットにローションを塗って、「ああ、この人はすぐには死ななかつた」と、翌週には棚に並べたりはしないのである。ですから、たった一度しか実験していない爆弾を急いで落とそうとするの



は、非常に疑わしいと言わざるを得ないのです。日本がすでに負けていたことを考えれば、なおさら怪しく見えるはずだ。日本がアメリカ本土を攻撃しようとしていたから、その防御のために原爆を投下したのではありません。3月初旬から日本本土に爆弾を落としていたのですが、彼らはそれを止めることができなかったのです。によれば

東京は3月9日に空襲され、10万人が死亡した。3月から7月にかけて、私たちは日本の他の66の都市を空爆し、さらに50万人の死者を出しました。その間に日本軍はアメリカの都市をいくつ爆撃したのでしょうか？あまり見ない。...ああ、そうだ、ゼロだ。

原爆投下は、こちら側の犠牲がこれ以上増えないようにするためだったと言われてはいますが、それは単なる誤魔化しに過ぎません。その時点では、日本は私たちを攻撃していませんでした。なぜ、そんなことをするのでしょうか。彼らの立場に立って考えてみてください。もし自分の国が爆撃で破壊されたら、あなたは撤退し、自国へのさらなる攻撃を防ぐために全力を尽くすはずで、攻撃的な任務に軍隊を送り出すのではなく、防衛的な態勢をとって自国にとどめることになるのです。あの時点で兵力を失うのは、日本の上空を飛ぶか、日本の近くを航行するしかなかったのです。兵員を失いたくなければ、近づかなければよかったです。天皇が「無条件降伏」したかどうかは重要ではありません。重要なのは、降伏しようがしまいが、我々に危害を加える能力がなかったということです。彼は殴られ、「おじさん」と言ったかどうかは意味がない。空爆を続ける正当な理由にはならない。

要するに、日本に核爆弾を投下した可能性はゼロなので、この件に関しては安心してください。それは単に起こらなかったのです。日本はそれを知っているし、ロシアもそれを知っている。それを知らないのは、プロパガンダで大量にバカにされているアメリカ国民だけだ。核の恐怖は、主にロシアを抑えるために使われたわけではありません（ロシアも核兵器を持っていませんでした）。70年間、アメリカ国民をパニック寸前の状態にし、軍事費と情報費をべらぼうに高く維持するために使われたのが主な目的だ。

これと同様に、トリニティで実験された爆弾が、長崎で使われたとされるファットマンと同じプルトニウム爆弾であったことも、非常に不思議に思うはずで、広島で最初に使われた爆弾はウラン爆弾で、実験されなかったのです。なぜ、実験済みの爆弾ではなく、実験していない爆弾を最初に投下することにしたのでしょうか。それは意味がありません。これもまた意味がありません。

終戦後、効率の悪いリトルボーイの設計が再び必要になるとは考えられず、多くの設計図や図面が破棄された。

え？マンハッタン計画にどれだけの費用がかかったか知っていますか？約250億ドルです何十億もかけて核兵器を成功させたのに、その設計図や図面を破棄するなんて、意味があるのでしょうか？実はこの話を聞くと、数年前にNASAを引退した調査員が月着陸のオリジナル映像を探した時の話を思い出します。NASAは

それを紛失したと言われたのです。

実は1980年代にテープを消去し、再利用していたことがわかったのです。冗談ではありません。説明すると、NASAは当時、大規模なテープ不足に直面していたそうです。まあ、それでいいのでしょうか。アポロ計画には1000億円ほどしか使っていないのですから、永久に残る記録など誰が期待するのでしょうか。ロコミで十分です。それに、『Battlestar Galatica』のエピソードを記録するために、テープスペースが必要だったので。

しかし、それだけではありません。戦争で使われたとされる最初の核兵器の実験が行われなかったことに関して、私たちはこう言われています。

リトルボーイ型の実験をしない理由はいくつかある。ハンフォード・サイトの原子炉で生産できると予想される比較的大量のプルトニウムに比べ、ウラン235が少なかったことが主な理由である。<sup>[14]</sup> さらに、兵器の設計が単純であったため、銃タイプのアセンブリで実験室試験を行うだけでよいと考えられた。成形爆薬の高度な調整を必要とする爆縮設計とは異なり、銃型設計はほぼ確実に機能すると考えられていた。

飲み込むことを期待されるもの!最後の2つの文章は、最初の文章と矛盾しているので、

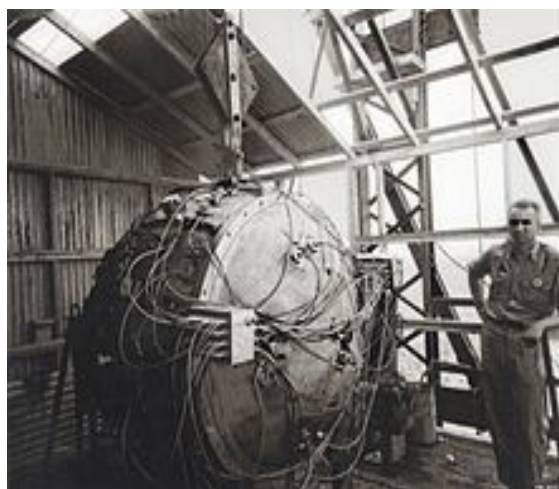
よく読んでください。

最初の文では、兵器の設計は単純であり、テストが必要なのは銃型の組み立てだけです。2番目の文では、これが逆になっていることに注目してください。銃型アセンブリは確実に機能するので、テストする必要がないことが暗示されています。しかし、インプロージョンの設計は今や洗練されています。あなたの脳がかき回されているのです。実は、この2つの文章、どちらも的を射ていない。この兵器は、私たちが知っているように、この種のものとしては最初のものであると主張されていました。最初に発明され、最初に使用された核爆発であるとされていました。この兵器には莫大な費用がかかり、そのために

ドイツから盗んだ数人の物理学者を含む西側諸国のトップクラスの物理学者の協力が必要だった。では、どうして兵器の設計が簡単なのだろうか。それは「爆薬の調整」だけでなく、それまで理論的なものでしかなかった「連鎖的な爆発」が必要だったのだ。これは理論的なもので、実戦でテストされることはなかった。

さらに、もしこれらの爆弾が戦争で最初に使われる前にテストする必要がなかったとしたら、なぜ後の爆弾は何百回もテストされ、世界の大部分を吹き飛ばされる必要があったのだろうか。いつものように、私たちに語られる物語には一貫性がない。

それから、ガジェットとファットマンには大きな違いがあります。ガジェットはトリニティで爆発したものです。ファットマンはその24日後に長崎で爆発した。



たった3週間で、これほどまでに技術を磨き上げることができるなんて、驚きですよ。2枚目の写真がまさに爆弾発言ですが、直径が60インチしかないので、1枚目の写真にあるようなGadgetはこの中に入らないでしょう。つまり、ファットマンに内蔵するガジェットは、同じ出力を供給しながら、より小さく、よりシンプルでなければならないのだ。では、もしファットマンがすでに作られていて、より小さくシンプルであったなら、なぜガジェットはそれほど大きく複雑だったのだろうか？この2つは同時に作られたのである。何年も前から取り組んでいたと言われているが、実は1年前から取り組んでいたに過ぎない。最初の濃縮ウランがロスアラモスに到着したのは1944年6月だった。ウランがなければ、ウラン爆弾の研究はできないのです。さらに、これらのことは、トリニティのページで語られているジャンボの建造に関するものと矛盾しています。ジャンボはトリニティのガジェットがうまく爆発しなかった場合に備えて作られた容器で、プルトニウムを保存することができるようになっていました。2回目の実験に必要な量が足りなかったのです。では、どうやって「太っちょ男」のための十分な量を確保したのでしょうか？

7月までに2回目の爆発に十分な量を確保したと言われます。しかし、それに関してウィキペディアにはこう書いてある。

ジャンボが到着する頃には、ハンフォードの原子炉でプルトニウムが大量に生産されており、オープンハイマーは2回目の実験に十分な量があると確信していた。

これが、ジャンボがトリニティで使われなかった理由の説明である。しかし、このことは、トリニティ実験の時点では、新しいプルトニウムが2回目の実験に使われるのか、それとも日本に向かう爆弾に使われるのか、確信が持てなかったことを示しています。また、プルトニウムの量も十分とは言えなかった。オープンハイマーが自信ありげに

言ったのは、そこに大きな疑問符があったことを示している。いずれにせよ、このことはファットマンが当時まだ完成していなかったことを示している。トリニティ実験が成功し、トルーマンが日本への即時搬入を命じた場合に備えて、すでに空の状態で作られていたと考えるとよいのでしょうか。ハンフォードから充填するのに十分なプルトニウムがあったとしても

ファットマンにプルトニウムを輸送し、ファットマンに充填し、校正し、積み込むといった作業を3週間以内に行わなければならないのです。ファットマンがカートランドを出発したのが7月26日だから、実際には9日ほどで完了したと言われている。1) このような重要な装置の作業を急ぐのは意味がない（このような重要な装置の作業を急ぐのは極めて**危険**であるはずだ）、2) 急ぐ必要はなかった。日本はすでに敗北しており、爆撃する理由は全くなかった。ましてや、最初の核爆弾を投下する理由はなかった。

その証拠に、トリニティ実験が行われる前に、その2カ月前に「リハーサル」が行われていたことをご存じないでしょうか。このリハーサルでは、108トンの長大な爆薬が同じ場所で爆発させられた。不思議なことに、この通常爆発には放射性同位元素とガンマ線生産者が混入されており、彼らはそれを認めている。



それが従来の火薬の積み重ねです。従来の爆発がどうして核爆発の「予行演習」になるのか、自問自答してみるのもよいでしょう。核爆発は、従来の爆発とは全く違う種類のものとして売られているのですから、後者が前者のリハーサルになることはあり得ません。1マイル泳ぐのに1マイル走ってリハーサルしますか？いいえ、核爆発について学ぶには、別の通常型爆発を走らせることはできません。大きな核爆発のリハーサルをするには、より小さな核爆発を起こすしかないので。

放射性同位元素の混入は、通常爆発を核爆発に見せかけようとするもので、もう一つの明白な手がかりである。しかし、それで誰をだますのだろうか？彼らは自分たちを騙すことはできない。なぜなら、パンチをスパイクしたのは彼ら自身だからだ。彼らはあなたを騙すしかないので。

今の新しい捏造事件の訓練のやり方と比較してみてください。911の時、実際の事件と同時に様々な訓練が行われたのを覚えていますか？ロンドンの7/7事件でも同じように、同じ日に同じような訓練が行われていました。サンディフック事件もそうだし、最近売られている他の「悲劇」のほとんどもそう。事件の直前や最中に必ず「リハーサル」が行われているのです。トリニティ実験も同じで、2ヶ月前に奇妙なリハーサルが行われ、通常爆発が核爆発に見せかけられたのです。なぜでしょうか。トリニティ実験の写真を見たとき、それが7月に行われたものか5月に行われたものかを知る方法はあるのでしょうか？いいえ、タイムスタンプはありませんね？核爆発と通常兵器の爆風の違いを、目で見て分かりますか？いいえ、誰もわかりません。なぜなら、核爆発などありえないからです。大規模な通常爆発があり、そして写真館で貼り付けられたり、ルックアウトマウンテンのような大きなFLMスタジオで偽造された核爆発があるのです。

リハーサルの爆風によるブルームが60マイル先まで見えたことを認め、シールド少佐はそれが「美しく」見えたと述べている。なぜ写真がないのですか？なぜ比較できないのでしょうか？1つの理由はリハーサルを夜間、午前4時37分に行ったからです。なぜ、そんなことを？なぜ、砂漠の真ん中で、暗闇の中、こんなものをいじくりまわしたいと思うのだろうか？詳しくは以下をご覧ください。

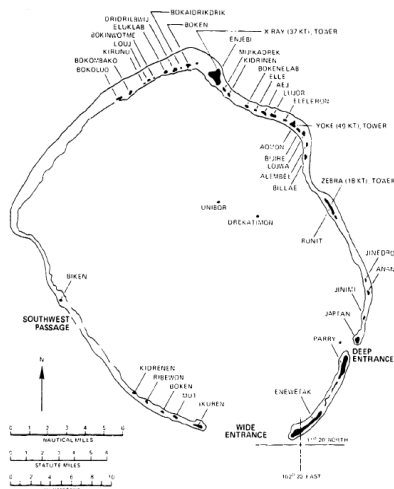
[後日追記)。上の108という数字につまづいただけです。100でも109でも110でもなく、なぜ108のロングトンなのか？この数字も数秘術の目印になるからです。この数字は、私の科学サイトと芸術サイトの両方で、私の論文のいくつかに出てきました。加速器では、陽子は108倍という質量増加の限界があります。その理由は、私が初めて明らかにしました。それを発見したとき、当時、東洋の宗教を研究していた私のパートナーは、「それは変だ」と言ったのです。ヒンズー教では、この数字がとても重要なんだよ」と。シヴァ神は108の名前を持っています。ムキーヤ・シヴァガナは108体あります。仏教の数珠には108個のビーズがあります。また、ユダヤ教でもこの数字は重要です。18という数字はチャイと関連しており、108はその低倍数である $6 \times 18$ である。108は武道においても重要である。これはテトラナッチ数です。オッペンハイマーはユダヤ人で、東洋の宗教を研究したり、引用したりしていたので、108という数字は偶然ではなかったと思うのです。爆心地の直後、彼はバガヴァッド・ギーターから引用した。

もし、千の太陽の輝きが一度に天空に炸裂するならば、それは強大な太陽の輝きのようなものであろう。

こちらも貼り絵です。



それは、サンドストーン作戦中のエネウェトク爆心地のものです。しかし、全体に線が入っているのが、明らかに偽物です。下半分、右側にある長い縦線を見てください。さらに悪いことに、水中の反射が正しい位置にないのです。反射が左側に傾いているのがわかりますか？これは、海そのものが傾いていない限り、ありえないことです。リフレクションは、画像と撮影者の間に直接あるべきです。つまり、2つの輝点が垂直に並ぶはずなのです。もう一つの問題は、またしても海の波をごまかすことに失敗したことです。この問題は、ビキニ写真の分析でお見せしたとおりです。爆発の周りには大きな円形の高波があるはずですが、それがありません。多くの水が上昇しているのが見えますが、水が外に出ているわけではありません。部分的な高波があるように見えると言うでしょうが、それは高波ではなく、環礁そのものなのです。



もう一つの問題は、やはり小さな雲がぶら下がっていて、爆風にまったく反応しないことです。爆風はその時点ではキノコ雲に限られると言うかもしれませんが、そうではありません。爆発は空気中をかなり速く伝わり、水の噴出ができるよりもずっと速いのです。水の噴出がそこまで形成されるまでに、空気中の衝撃波はその近くの雲に到達し、それらを吹き飛ばすか、少なくとも引き伸ばすかして、その出来事を指差すようにしたはずです。

また、大本営発表では、こんなことも言われています。

**礁湖の船から見ていた観測者は、鮮やかな閃光を見、放射熱を感じた。**

輻射熱を感じれば、放射線も浴びることになるのだ。しかし、ビキニの広報写真では、船員の一人がシャツを着ていなかった。彼らは、あなたが信じることを期待しています。

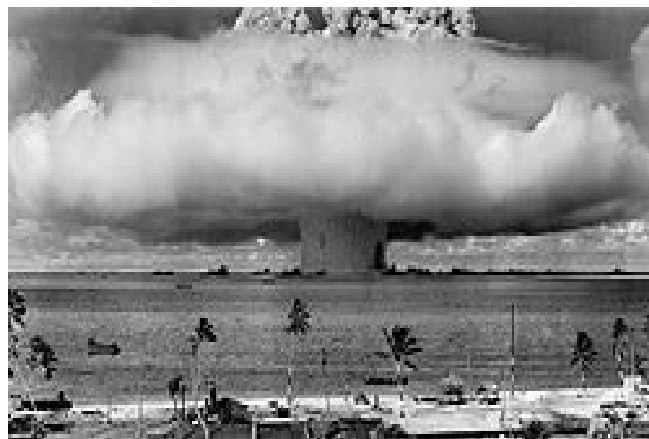
そして、どのラグーンのことを話しているのでしょうか？同じ環礁の中？違うだろう。音は45秒で届いたというから、約15km、つまり9マイル離れたところにいたことになる。環礁の直径が約15マイルなので、同じ環礁内のラグーンにいたことになりません。さて、上の爆発写真に戻ります。観測者はその円の中にいたのです。

トリニティ実験では、兵士たちはさらに近くにいて、わずか6マイル（約8キロ）離れたところから見ていた。私たちは写真を見たので、その兵士たちが無防備であることを知っています。彼らは軍服を着ているのです。もしどちらかの爆発が本当なら、それは非常に悪い考えだったでしょう。そして、1945年のトリニティから教訓を学び、1948年のエネウェトクで同じことを繰り返さないようにすべきだったのです。





またトリニティの写真ですね。いろいろと間違っていますね。そもそも、この爆発は、後の爆発を捏造した方法と比べると、かなり情けないものです。トリニティは約20kt、ビキニ環礁のエイブルとベイカーは23ktと、ほんの少し大きかっただけです。それなのに、ベイカーはこのように捏造されている。



3ktの差は何なんだ？

しかし、このトリニティの写真にはもっと大きな問題があるのです。兵士たちをよく見てください。なぜ、一番近くにいる兵士は黒い影で、すぐ前にいる兵士は薄いグレーの影なのでしょうか？意味がありません。太陽は選択的な影を落とさないのです。黒かグレーのどちらかであって、両方ではないのです。たくさんの兵士がいないのに、そこに見えるように見せるための下手な貼り絵です。



この写真も明らかに偽物なので、同じような問題があります。これらの人々は爆風にずっと近いだけでなく、まだ防護服もゴーグルさえもつけていないのですが、またしても影が意味をなしていません。爆風は右から明るく照らされているが、手前の人物は右からぼんやり照らされているだけである。それに、彼らはプロのカメラマンであるはずで、爆風を一番よく撮りたかったはずで、そのためには右側ではなく、後ろに太陽があるはずで、太陽が東から昇ることも知っていたはずで、南側に位置することはなかったはずで、この写真の中景も意味がなく、ここにあるのはスタジオの前景と偽の背景でしかないことがわかる。

ゴーグルの話は、これまで強調してこなかったもので、ちょっと間を置きたい。もし、これらの事象が現実のものであったなら、目に恐怖を与えるガンマ線を大量に放出したことでしょう。ガンマ線は光子ですから、他の粒子と比べると距離の違いはあまりありません。光子は光速 $c$ で移動するので、このバカな写真家たちのところまで約0.00001秒で移動することになる。その間にエネルギーが失われることはないので、数マイル後ろに下がっても何の役にも立ちません。ガンマ線は非常に高いエネルギーを持っているので、ほとんどのゴーグルは役に立ちません。目を閉じて、放射線はまぶたを突き抜け、何もなかったかのように通過してしまうからです。撮影者は、下の写真に写っている砲台の上にいる人のように、二重三重にシールドされた双眼鏡を覗いているはずで、その代わりに、私たちは彼らがただ目を開けてそこに立っていると信じなければならぬのです。



環境物理学者ジャック・エービーが撮影したとされる、唯一のカラー写真だ。F4で撮影されたものと思われる。朝の5時半に撮影したのだから、なぜレンズを開放にしてf2.8にしなかったのだろうか？ゴミであることを確認したかったのだろうか？この写真はISO100ではなく、ISO1600で撮影されています。彼のシャッタースピードは100。えっ、彼は三脚を知らなかったの？なぜアメリカ政府は、唯一のカラー写真を素人から手に入れなければならなかったのか？カラーFLMや三脚の使い方を知っているプロを雇う余裕がなかったのでしょうか？おいおい、この話は明らかにでたらめだろう。オペレーション・ゲット・アウト・マイ・フェイス（Get-Outta-My-Face）。

とされています。

写真班は50台ほどのカメラを使い、動画や静止画を撮影した。1秒間に1万コマの撮影が可能な[ファスタックス](#)製の特殊カメラで、爆発の様子を細部まで記録した。

もしそうなら、なぜトリニティの画像はすべて、粒子が粗く、ぼやけ、遠くから撮影され、7/8影になっているという、私たちが見てきたようなゴミなのでしょう。なぜAebyの哀れな写真がまだ持ち出されているのでしょうか？なぜ、このような品質の映像なのでしょう。そのfilmは1秒間に24フレームで、10,000フレームではありません。それともこの品質なのか？このカメラは1秒間に1,500万枚の撮影が可能だと言われている。もしそうなら、なぜFLMは研究室でつなぎ合わせた風船シーケンスのようなガラクタなのでしょう。最後のリンクで笑えないなら、あなたは本当にジョークを理解していません。

このような誤魔化しは、後の月面着陸やケネディ暗殺の際にも全く同じように見られた。月面着陸では、揺れ動くモニターから映し出された、粒状でゴースト化した第2世代の画像を見なければなりません。ケネディ暗殺では、ベル&ハウエルズームティックで撮影されたザプルーダーのクソ映像を研究しなければなりません。今ではプロのカメラマンがすべてのアクションの間に縁側に立っていたことがわかっています。



ケネディが車で通り過ぎるとき、なぜあの人たちは地面にいるこの家族を撮影しているのだろうか？それは、草むらで遊んでいる聖家族の再来で、大統領が車で通りかかり撃たれていることなど、カメラマンは全く無視すべきなのだろうか？

Lookout Mountainのページでは、こんなことが書かれています。



だから、軍が何の技術も持っていなかったわけではないのです。50マイル離れた場所にいるアマチュアカメラマンに頼る必要はなかったのです。このようなゴミのような写真を見せるのは、それが自分たちを隠すのに役立つからだ。このような馬鹿げた低解像度の写真は分析が難しいので、分析を妨げているのです。

トリニティ・テストの実施時間について、さらに問題があることがわかった。当初は4MWTに予定されていたと言われています。1945年7月はまだルーズベルトの戦時下であったから、7月16日のニューメキシコ州中央部の日の出は午前6時7分頃であったろう。なぜ、真夜中に重要なテストを予定したのでしょうか

そしてもしテストが午前4時に予定されていたのなら、なぜカメラマンたちはそこにいたのだろうか？最初のフラッシュ以上の映像は撮れなかったはずです。しかし、これはさらに重要なことで、爆発は5時29分（MWT）に起こったと言われているのです。これは現地の日の出よりまだ38分早い。チャートで確認してください。では、どうやって上記のような昼間の画像を入手したのでしょうか？



日の出の38分前ということですか？宇宙飛行士が着陸して黒く塗りつぶす前、その頃の月は本当に明るかったんだらうなあ。昔は月が落とす影がすごかったんですよ。

もちろん、日の出までは完全に暗くはならないので、5時29分がトワイライトになると言われるでしょう。しかし、ここでは日の出まで38分もあるはずで、その時間では鹿を撃つことすら適法ではない。人間の目が薄明かりを嫌がるなら、カメラはもっと嫌がるは

ずです。この小さな

ライト、例えばジャック・エービーがやったと言われるような100、F4での撮影はあり得ない。それに、これらのカメラには、放射線から光源を守るためのフルターが搭載されていたはずです。そうすると当然、光はさらに弱くなる。だから、私たちが売られた話のどれもが意味をなさない。

この人たちは太陽ではなく、爆発に照らされていると言われそうですが、それも違うということがわかります。もし彼らが爆発によって照らされているなら、彼らの影は彼らの真後ろにあるはずですが、私たちは、影が左側にあるのを見ることができません。それに、爆発は「1、2秒だけ山を照らした」だけです。これはその数分後である。

影の長さが、これが日の出時ではないこと、ましてや日の出前であることを実際に証明している。上の写真の真ん中にいる座った兵士は、私の画面では約1.5インチの高さである。彼の影は1.5インチで、3倍にもなる。ということは、太陽は地平線から約18度上にあることになる。ということは、時刻は午前8時頃ということになる。これは、「私の時計が止まった」作戦と呼んでもいいだろう。

『ニューヨーク・タイムズ』紙のトリニティ担当記者ウィリアム・ローレンスは、この出来事をこのように書いている。

大きな叫び声が響く。それまで砂漠の植物のように大地に根を張っていた小さな集団が、春の訪れとともに原始人が火祭りで踊るようなリズムで踊り出した。

その大きな叫びは、ガンマ線によって目を永久に失明させられ、睾丸の生殖能力を永久に損なわれた何百人もの馬鹿者の叫びであったはずだ。都合のいいことに、そんなことは起きなかった。

また、不思議なことに、プリ・イベントのムービーでは、兵士たちにこれから見るものについて黙っているようにというサインがたくさん出てくるのです。なぜか？テストは秘密ではなかった。なぜ、そうなるのか？ニューメキシコ州のほとんどの地域で、何百マイルもの距離から見ることもできたのです。その日のうちに西部の新聞に載り、もちろん数週間うちに自慢話になった。広島はそのわずか21日後であり、実験の全容はその時に公表された。では、なぜ地上の兵士に警告のサインを出したのか。私は、彼らが偽物について黙っているように命じられていたのではないかと思う。おそらく多くの人がこの爆発が核爆発でないことを知っていたか、直感していたのでしょうか。このことは、なぜ兵士たちが防護服も着ずに爆発現場付近をうろついていたのか、その理由にもなります。彼らは、通常の爆発に防護服は必要ないと知っていたのです。何が起こっていたのかを知れば、この事件の映像が意味を持ち始めます。

トリニティーの話を書けるように、放射性降下物は遠くインディアナ州まで届き、コダックのフィルムがダメになったという話もある。興味深いのは、インディアナ州では数週間後にフィルムがダメになったが、そこから数マイルしか離れていないカメラは影響を受けなかったということだ。つまり、放射性降下物によって何千キロも先のフィルムはダメになったが、ガンマ線によって地元のカメラはすべて助かったということだ。まさに奇跡だ。馬のホッケー作戦とでも呼ぼうか。

ここで、Wikipediaのページからそのまま引用した笑い話を紹介します。

私は、開いた左目を溶接機用ガラスで覆い、右目は覆わずに開いたまま、まっすぐ前を見つめていた。突然、右目が光で見えなくなった。光は、強さを増すことなく、瞬時にすべての場所に現れた。左目には、火の玉がものすごい泡のように、あるいはノブのようなキノコのように立ち上がるのが見えた。私はほとんどすぐに左目からガラスを落とし、光が上に登っていくのを見た。光度は急速に低下し、左目は見えなくなったが、それでも驚くほど明るかった。

強度が急激に低下することは関係ないだろう。あなたの目は、最初の2秒間で破壊される

か、されないかのどちらかでしょう。しかし、その先のストーリーに意味があるのか、自問自答してみてください。この男は溶接機用のガラスを手にしたが、片目しか覆っていないのか？どんだけバカだと思ってるんだ？彼は弁護士で、溶接工ではない。わざわざ溶接用ガラスを探し出して持ってきたのに、なぜ片目だけに使うのだろうか？もし、この話を信じるなら、彼は科学者からそのガラスを買って使うように勧められたと考えなければならない。だから、彼はそれをやるかやらないか、どちらかである。片目だけに使うということは、激痛と永久的な失明を求めることになるからだ。このフェイクストーリーを解読する唯一の方法は



というのは、彼は強烈な光と泡の両方について説明したいのだとわかる。そこで彼は、片方の目で一方を見、もう片方の目でもう一方を見るという、両方を可能にするようなバカげた話をでっち上げるのである。

この核実験の暴露は無限に続けられるのだが、すぐに飽きてしまう。他と同様、本当に簡単すぎて、数ページで飽きてしまうのだ。後でこの話題に戻るかもしれないが、今は他のことに切り替えなければならない。

\*実際にはB-

17が使用されました。[アフロディーテ作戦](#)を参照。読者の中には、これらの飛行機は遠隔操作で離着陸できたと既書している人もいるが、もしそうなら、なぜ離陸にパイロットが使われたのだろうか？ケネディが操縦しなくても、この飛行機を高度まで飛ばすことができたのに、なぜケネディに操縦させたのだろうか？

また、アフロディーテ作戦が完全に失敗し、どの飛行機も目標に命中しなかったことを認めていることにも注目してください。